







高齢者の視覚による食嗜好に関する研究

調理科学研究室 3年ゼミ（第7期生）

渡辺萌美 岩澤美樹 桐生沙織 清水恒己







坂場美由貴 佐久間静華 吉川綾美 吉田愛梨

1. 【背景・目的】 食べる前に感じる料理の印象は食欲に影響し、食生活のQOL (Quality of life) を左右すると考えられる。これまで本研究室では、病院やケアハウス等で用いられているテーブルクロスやランチョンマット、お盆等の色調が高齢者に与える印象を調べ、好きな色と嫌いな色について二極化の傾向があることを見出した。すなわち、好きな色は明るい色(白、黄、薄桃)、嫌いな色は暗い色(黒、紫、青)であった(図一1)。そこで、私たちは、これら6色と弁当箱との組み合わせの印象を検討することにした。

順位	1	2	3
好き			
嫌い			

2. 【方法】 ①今回は、赤と黒の小箱を市松模様に配置した「松花堂弁当箱」を用い、高齢者の好きな色と嫌いな色に、弁当箱を組み合わせ、写真を撮った(図一2)。

②献立は、過去の卒論研究の「高齢者向き弁当の開発」を参考にし、和風献立を作成した(鮭の混ぜご飯、豚汁、豆腐ハンバーグ、ほうれん草のおひたし、卵焼き、葡萄)。また、全体の印象は、食品学科の学生10名で評価を試みた。∴

順位	1	2	3
好き			
嫌い			

3. 【結果・考察】 弁当箱に詰めて配置した場合も、食卓の色調は明るいほうが好ましいと思われた。

これは、弁当箱自体の色調が渋い赤・黒・茶系であったことも、顕著に影響したと考える。